

韓国社会福祉学会 2022 年度秋季共同学術大会での自由研究発表報告

同志社大学大学院
李 東振

2022年10月28日(金)と29日(土)の2日間、韓国社会福祉学会共同学術大会が「韓国社会福祉の基本をもう一度考える:知識の省察と再構造化」というテーマで、韓国の江南大学で開催された。今回の大会は、13カ所の学術団体と、14カ所の専門研究機関が共同で主催した大規模の学術大会であった。

大会場である韓国江南大学は、韓国で初めて社会事業学科が設置認可された大学であり、韓国初の「4年制独立社会福祉大学教育」を実施した韓国社会福祉の開拓地として評価されている大学である。また、同志社大学の嶋田啓一郎先生に師事して指導を受けられた金徳俊先生は、江南大学の社会事業学科を設立メンバーであり、江南大学は日本社会福祉とも深い縁があるといえる。

筆者は、日本・韓国・中国における研究交流の推進に関する覚書により、日本社会福祉学会の発表者として参加し、以下のような自由研究発表を行った。近年、日本では保育士による子ども虐待が大きな社会問題となり、日本政府も保育士による子ども虐待や不適切な保育の実態調査を実施している。しかし、従来の保育と虐待に関する日本の先行研究は保護者による家庭内虐待が中心となっているため、保育士による子ども虐待の発生要因や影響をおよぼす要因は何かという研究問いを設定し、韓国の先行研究レビューを通して考察を行った。発表後、研究に関するご指摘や韓国の研究者より日本の子ども虐待に関する政策や予防・対応システム、日本と韓国の保育制度の相違点、子ども家庭庁の設置などの質問を受けた。自身の研究を幅広く進めるためには国際研究交流や共同学術大会に参加することが重要であると、改めて実感した。

また、第2部の「産学協力セッション」における韓国保健社会研究院の「人口構造変化と『見守り(児童分野の保育や子育てサービスおよび高齢者介護を意味する)』の再構造化」という主題のセッションにも参加した。韓国も急激な人口構造の変化に直面しており、子ども虐待などに対応するための「児童権利保障院」や社会サービスの公共性の強化およびサービスの質の向上のための「社会サービス院」などが新設され、韓国における福祉政策に大きな変革が起きている。変化する社会の中、子どもの当事者性つまり、「子どもは見守りサービスを望んでいるのか」という発言が印象に残った。今後、現在の教育と保護者の視点からの見守りサービスの政策や実践に対して、子どもたちがサービスを通して自由に、楽しく遊べることができる公共サービスは何か、子どもの権利が最優先に尊重されるための公共サービスは何かを考えてみたい。